

新資料紹介「土門拳による碌山作品撮影」関係資料

武井 敏

筑摩書房の白井吉見の企画「碌山全集」のために、土門拳が写真撮影を行ったことは、以前より『碌山美術館報』で紹介してきたとおりである（第三十六号「ストープを囲んで 白井吉見の萩原守衛考を語る」、第三十九号「ストープを囲んで 萩原碌山研究委員会委員長横沢正彦を語る」）。この撮影に関わる一通の葉書が安曇野市文書館に所蔵されているとの情報が、安曇野市教育委員会教育長橋渡勝也氏より寄せられた。貴重な情報提供に心から感謝したい。

葉書は、九州博多にいた白井吉見が松本市附属国民学校で勤務する横沢正彦に宛てたもので、昭和十八年六月二十八日の消印がある。内容は以下の通りである。「○彰風会の折は御厄介になりました○碌山全集は予定通り進んであります 二十五日から土門氏が東京にあるブルンズの撮影をはじめました。宮内像と北條虎吉を各十数枚うつし／＼しましたが 気に入らず やり直す／＼らしく 気に入ったものの中から高村さんが押んでくれることに／＼なっております 文部省の「女」／＼がずい／＼から穂高へ出かけること／＼になりませう○昨晩は博多情調を味はふ／＼気力もなく早くねむりました／＼今朝は快晴巖島の方へかへります。この記述から、撮影のある程度の進捗状況、《宮内氏像》《北條虎吉像》《女》は東京で撮影されたことが新たに明らかになった。



安曇野市文書館蔵

